

令和6年度町政懇談会議事録

- 1 日 時 令和6年10月16日(水) 13:30~14:28
- 2 場 所 サンフレッシュ白河 1階会議研修室(白河市)
- 3 出席者 伊澤町長、平岩副町長、森副町長、舘下教育長、横山復興推進課長、朝田戸籍税務課長、中野農業振興課長、藤本建設課長、中里住民生活課長、相楽健康福祉課長、木幡教育総務課長兼生涯学習課長、高橋課長補佐、松原支援員(13人)

4 町民出席者 15人

5 町長あいさつ概要

今年度の町政懇談会は、双葉町の復興状況について、特定帰還居住区域復興再生計画と第2期帰還意向調査について、双葉町住宅再建支援事業について説明し、皆さまからのご質問やご意見に丁寧にお答えするとともに、その他のご意見、ご要望等についても意見交換させていただき、今後の町政運営にいかしてまいりたい。

○町内復興の取組みについて

1) 駅西地区生活拠点等の整備について

町民の皆さまの帰還や就業者、移住者向けの生活環境を整備していた駅西住宅は、今年5月に全86戸が完成し、現在74戸に入居されている。昨年2月に開所した双葉町診療所では、週3日を基本に内科の診療を行っており、臨時の休診等については、町公式ホームページにおいて随時発信するので確認いただきたい。

2) 駅東地区の整備について

駅東地区は商業を中心とした賑わいを形成するエリアとして整備を進めており、役場庁舎北側の隣接地に建設中の商業施設は、イオン東北株式会社の入居が決定し、令和7年度中のオープンを予定。スーパーマーケットがオープンすることで、町内における生活環境が大きく向上し、双葉町にお住まいの方、復興に携わっている方々の日常生活を支えるとともに、これから町内で居住を検討されている方々にとっても、重要な判断材料となることで、更なる帰還、移住定住を促進し、居住人口の増加に弾みがつくものと考えている。町体育館跡地に建設予定の商業施設(飲食店)の整備も進めており、入居する3軒の事業者も決定している。昼間から夜間の飲食まで、利用される方々が幅広く食を楽しめる施設となる予定。

3) アクティビティエリアの整備について

双葉町復興まちづくり計画(第三次)において、中野産業団地と復興祈念公園、中間貯蔵施設に挟まれた約15ヘクタールの農地を中心とした土地を、アクティビティエリアとして整備する方針を打ち出し、事業化の検討を進めてきた。住民意向調査や復興町民委員会において、かつて海浜公園で整備されていたキャンプ場やバーベキュー場の再整備を求める意見が多く寄せられていることから、アウトドアゾーンをはじめ、運動交流広場など

の配置を検討。また、民間活力を積極的に活用し、初期費用の抑制を図りながら段階的に整備を進めてまいりたいと考えている。

4) 次に特定復興再生拠点区域内の営農再開への取組について

除染後の農地保全管理については、本年度で終了。来年度からの営農再開を目標としているが、既に町内では営農再開に取り組んでいる個人の農業者の方や農業法人によって、今年は約4ヘクタールの農地でブロッコリーなどの栽培が始まっている。

また、農地の基盤整備やほ場整備事業の実施に向け、各地域における調整が進んでいると聞いており、地元のご意向を踏まえ、本格的な営農再開に向けて、担い手の確保とともに一体的に取り組んでいく。

5) 町内の防災対策について

昨年度から防災行政無線の運用を開始し、屋外スピーカーだけでなく、災害時の緊急情報や防災情報を確実に伝えるため、町内に居住されている方、事業者等に対し戸別受信機の貸し出しを行っている。本年7月には、双葉町消防団第二分団に消防ポンプ自動車を配備。旧車両と比べ資機材を豊富に積載できるようシャッタータイプにするとともに、900リットルの水を積載しており火災現場で消火栓に接続することなく、速やかな消火活動を開始することが出来るようになった。引き続き、第一分団にも配備を進めるとともに、今年度中に町内2ヶ所に備蓄倉庫を配置していく。

6) 町内の学校再開について

基本構想では、「英語教育と国際理解教育を基盤とするグローバルな人材育成」を“目指す学び”のひとつとして位置付けている。双葉町学校設置検討委員会では、先進地視察を行うなど、学校施設の構成や配置計画について議論が交わされており、町内での学校再開に向けて、検討を進めていく。

6 説明

- | | |
|------------------------|------------|
| (1) 双葉町の復興状況について | (横山復興推進課長) |
| (2) 特定帰還居住区域復興再生計画について | (中里住民生活課長) |
| (3) 第2期帰還意向調査について | (中里住民生活課長) |
| (4) 双葉町住宅再建支援事業について | (中里住民生活課長) |

7 懇談概要

(羽鳥 男性)

芸文協（芸術文化団体連絡協議会）について、芸文協の行事としては毎年、美術展、芸能発表会、芸能大会をダルマ市で開催してきた。2011年度の震災の年はできなかったが、それ以降は毎年継続して開催してきた。ただ13年前と違って、芸文協の世界も高齢化の波が押し寄せていて、後期高齢者も数名該当するようになっている。役員の女性の中には中通り在住の方が多く、イベントで双葉町に向かう際、大熊町野上地区のあたりを車で通るのに不安の声が上がっている。また、ダルマ市についても開催が1月なので、天候

がだいぶ気になり、なんとか芸文協の役員を勘弁してもらえないか、そういう話が出ている。

私事だが、私も去年と一昨年と2年続けて手術をしており、現在もずっと腹の中に爆弾を抱えている状態で、私も役員を勘弁してもらえないかと思ってる。しかし、役員を辞めて終わりというわけにはいかないため、芸文協に所属している他所の団体にもう一度声掛けをして、役員として協力してもらえるかどうか、現在取り組んでおり、教育委員会の方にもお願いをして今進めてるところである。

町が一生懸命に復興に取り組んでいる中で、それに抗うつもりは全くないが、今はそういう状況だということだけをお含みおきいただきたい。

(館下教育長)

芸文協の役員の方には、いつも本当にお世話になっている。来年度についても会長のもとで計画が進んでいるため、そういったことも含めて、皆さんと一緒に、役員の方々からも実際の声を私も聞きながら、今後どうしたらいいかを考えていきたい。

また、若い方もいるため、そういった方にバトンタッチする部分も必要だと考え、それを進めていきたい。

(山田 男性)

除染、除染というが、スピードはなかなか上がらないのか。ギアをいれかえて、1年でも2年でも先行く方法をとっていただきたい。一般の町民が言っても進まないのだから、そのあたりは町の方でギアをあげてお願いしたい。

(建設課松原支援員)

国・町としても一日も早い避難解除を目指す気持ちは皆さんと同じである。現在、下長塚と三字の除染をしているが、今月中からは下長塚・三字以外の行政区、山田、石熊、羽鳥など早いところでは除染を開始する。

また除染だけでなく、皆様に安心してお戻りいただくために上下水道などのインフラ、両方の復旧も重要になってくるので、除染はもちろん環境省でしっかりとさせていただくとともに、上下水道の復旧については水道企業団、町の方で働いて1日も早く避難解除を迎えられるようにしっかりとやっていきたい。

(山田 女性)

戻りたい気持ちは山々だが、この14年の長さが難しいと感じさせる。私がいますぐ戻るという場合、私と私の母で戻ることとなる。現在老々介護の状態にあり、戻るとなれば、養老施設を作っていただく形でしかなく、かえって町に迷惑をかける。息子たちは、一応戻るとは言っているが、今はまだ勤めていて、子育て真最中である。だから子育てを終えて、定年退職しなければ双葉町には戻れない状況である。そうすると、今から20から30年、少なくとも20年以上は経たないと双葉町に定住はできない。戻りたい気持ちはあるが、そのあたりを考慮して、長い目で見ていただくことができるのか。

(伊澤町長)

特に若い世代の人たちが戻るハードルが非常に高くなっているというのは感じている。もちろん高齢の方が戻ってきたときに、病院や介護福祉関係が悩みになると考え、町民の帰還状況にみあって、我々としても福祉介護も含めて取組をしていく。

特に医療が今後、重要になると考え、現在県と協議をしているのは、県立大野病院である。双葉厚生病院と統合の話があったが、白紙になった。そこで、双葉郡の二次医療を考えたときに、県立病院を早急にしっかりと整備をする。ある程度時間かかるため、ソフトの部分よりまずハードを先にやるのはどうかということを考えている。

県立大野病院の今の建物は解体をして、新たな建物を建てることが決まっているため、早急にもその建物を作り、対応可能な診療科目から入れていき、医療体制を作ったらどうだろうかと考えている。県内は医療過疎となってきた非常に厳しい状況のため、できることからやっていかないと県立大野病院開院はありえないと考える。

介護福祉については、特別養護老人ホームは現在、仮設でいわきに作っている。今考えているのは、今までは各町で作っていた介護福祉施設を浪江、双葉、大熊の3町の広域連携で協力して老健施設を建てたらどうかということを考えている。

また、働いている若者の帰還をフォローするために、中野地区の復興産業拠点24の企業と協定締結をして、今18の企業が創業し、雇用が生まれた。残念ながらその企業に、双葉町の住民が就職していないのが実情。本来双葉町の若者の帰還の整備を考えて取り組んだ事業が全く意味を結んでないが、現在、町民が生活でき、収入等を確保できるような企業がどんどん双葉町に進出している。そういった部分で、帰還への思いがあり、働くところが必要という場合は、相談いただければ対応させていただきたい。転職はなかなか気持ち的に難しいと思うが、もし戻るといふことであれば、そのような環境も整備していることをご理解いただきたい。

閉会 14時28分